

和

平成18年5月2日(火)

No. 6

文責：北澤

市浦小学校5年学級通信

スピーチタイム：リレー作文

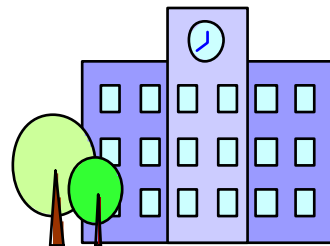
あゆみ

ぼくは急いで島に向かった。その島は、緑の草がたくさんあるところだった。もう少し進んでいくと、鉄ぼうがたくさんあった。ぼくは、「こんなところに鉄ぼうがあるなんて。」

とさげんだ。そして、ぼくはその鉄ぼうを使って逆上がりの練習をした。少し休けいしていると、小さなメモがあった。そのメモを読んでもみると、逆上がりの練習の仕方の説明が書いてあった。ぼくは、その通りに逆上がりの練習をした。すると、逆上がりが出来たようになった。ぼくは思わず、「やったー。」

とさげんだ。と、さげんだとたん、立っている下に穴があいて、ぼくが穴にすいこまれた。そこは、ぼくの家の前だった。ぼくは家の中に入って、お母さんに逆上がりが出来たことを話した。

次の日、学校に行ってみると・・・



もとき

鉄ぼうの前にみんなが列を作っていた。思わず、「何をしているの。」

と聞くと、逆上がりが出来るかテスト中だと言った。ぼくも出来るようになった。逆上りをテストしてもらい、合格をもらった。学校に入って教室に入ったら、教室の中はからっぽで、あたりを見回したら、見たことのないスイッチが一つだけ見つかった。ぼくは、そのスイッチを押すとすごい速いスピードでグルグル回りはじめ、こわさでしゃがみこんでたら、そのうちとまり、顔をあげると、

「はやく席について。」

と先生の声。あたりを見ながら何があったのか、いわれるままに席についた。すると・・・



ととき

すると、「みんな鉄ぼう、うまくなったねー。」

と先生は言った。

そして、学校が終わって家に帰ると手を洗って、宿題をやった。そのあと外で友達と遊んだ。公園で鉄ぼうがあったので、友達と鉄ぼうをやった。学校で一回合格したので、回れると思ったら失敗したので、友達に笑われてぼくはくやしかった。するとぼくは友達に、「やってみて。」

といった。友達は平気な顔で回ってみた。ぼくは、その友達は回れないと思った。しかし友達は回った。すると友達は喜んだ。ぼくはくやしかった。また回った。しかし、回れなかった。だから・・・

次号へ続きます。

作文の宿題が始まります。

懇談会でもお話ししましたように、今週から早速宿題としてスタートします。確認しますが、流れとしては以下の通りです。

月・火	題材を決める	→大テーマから自分の題材を絞り込みます
水	骨組みを考える	→はじめ・中・終わりといった流れを書き出します
木	下書き	→骨組みカードをもとに、作文ノートに書きます
金	調整	→表現などの推敲をします
土・日	清書	→作文用紙に清書してきます

子どもたちにも説明しましたが、

- ・起こった出来事順に書いてみよう
- ・結果はできるだけ書かないように
- ・感想、気持ちをストレートに書かないように
- ・気持ちを書かない分、様子が分かる言葉を書いてみよう
- ・会話文(話したこと)があるときは入れてみよう

をこころがけて書いてみましょう。

決して、子どもたちの書く自由を拘束するものではありません。素直に見たもの、感じたことを、なんでも構わないので、自分の言葉で書ければよいのです。最初はとまどうかもしれませんが、自由に書いている姿を見守っていただければと思います。

私も指導の中で、子どもたちの『良さ』を見つけていきたいと思っています。ご家庭でも、一生懸命取り組んでいる姿を励ましてあげてほしいと思います。ご協力、よろしくお願いいたします。